



株式会社 横河ブリッジホールディングス

証券コード:5911

YBHD NEWS
No.54

- 第154回 定時株主総会決議ご通知
- 第154期 事業報告書

株 主 通 信

平成30年6月

平素は、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。
ここに当社第154期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)事業年度が終了いたしましたので、株主通信をお届けし、その概況をご報告申し上げます。

当期のわが国経済は、米国の保護主義政策などいくつかの懸念材料を抱えつつも、企業収益や雇用環境の改善が進展し、設備投資も持ち直すなど、景気は緩やかな回復基調で推移いたしました。

橋梁事業につきましては、総合評価落札方式において技術評価点の獲得に注力いたしました結果、国土交通省を中心に新設橋梁の受注を大幅に伸ばすことができました。保全工事につきましては、高速道路会社の大型工事を受注することができ、橋梁事業全体の受注高は過去最高となりました。

エンジニアリング関連事業につきましては、倉庫や物流施設などの建設需要の拡大を受けてシステム建築事業の受注が増加いたしました。また、超高層建築の受注などにより建築機鉄事業も前期実績を大きく上回りました。

この結果、当社グループの平成30年3月期の業績は、売上高、営業利益、経常利益、当期純利益がいずれも過去最高となりました。

当社は、株主の皆様に対する利益配分を最重要施策の一つとして認識し、業績ならびに今後の事業展開に伴う資金需要などを総合的に勘案のうえ、安定した配当を継続することを基本方針としております。当期の期末配当金につきましては、この基本方針に基づき、1株当たり13円とし、中間配当を含めた年間配当金は1株当たり22円とさせていただきます。

第4次中期経営計画につきましては、昨年度に目標を達成



いたしましたが、今後は新たな基本方針、目標などを定めた第5次中期経営計画を策定してまいります。また、計画の基盤となる設備投資のうち、主要な投資といたしまして、本年7月の取得を予定しております千葉県茂原市内の土地にシステム建築の第2工場を建設して生産能力の増強を図り、市場でのシェア拡大に対応してまいります。

また働き方改革につきましても、特に工事現場におきましては、長時間労働を是正するための改善目標(アクションプラン)を作成し、実施を目指してまいります。

厳しい事業環境が続きますが、グループ一丸となり、株主の皆様のご期待に応えられますよう努力してまいりますので、引き続き倍旧のご指導、ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

平成30年6月

【橋梁事業】
技術評価点の獲得に注力した結果、新設橋梁の受注が大幅に伸び、橋梁事業全体で過去最高の受注高
【エンジニアリング関連事業】
システム建築事業の受注が大幅に拡大し、建築機鉄事業も前期実績を大きく上回り、売上高、営業利益ともに過去最高を更新
【先端技術事業】
精密機器製造事業の受注が好調に推移



第154回定時株主総会決議ご通知

平成30年6月27日開催の当社第154回定時株主総会におきまして、以下のとおり報告ならびに決議されましたので報告申し上げます。

- 報告事項**
1. 第154期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)事業報告、連結計算書類ならびに会計監査人および監査役会の連結計算書類監査結果報告の件
本件は、上記事業報告、連結計算書類の内容およびその監査結果を報告いたしました。
 2. 第154期(平成29年4月1日から平成30年3月31日まで)計算書類報告の件
本件は、上記計算書類の内容を報告いたしました。

決議事項

第1号議案 剰余金の配当の件

本件は、原案どおり承認可決されました。
(期末配当金は1株につき13円と決定いたしました。)

第2号議案 取締役8名選任の件

本件は、原案どおり承認可決され、取締役に藤井久司、高木清次、宮本英典、高田和彦、大島輝彦、小林明、北田幹直、亀井泰憲の8氏が再選され、それぞれ就任いたしました。
なお、北田幹直、亀井泰憲の2氏は、社外取締役であります。

第3号議案 監査役1名選任の件

本件は、原案どおり承認可決され、監査役に廣川亮吾氏が新たに選任され、就任いたしました。
なお、廣川亮吾氏は本総会終結の時をもって監査役を辞任された北爪恒平氏の補欠として選任されましたので、その任期は当社定款の定めに従い、前任者の残任期間となります。

第4号議案 取締役に対する株式報酬等の額および内容決定の件

本件は、原案どおり承認可決されました。

第5号議案 監査役の報酬額改定の件

本件は、原案どおり承認可決されました。

第6号議案 退任取締役に對し退職慰労金贈呈の件

本件は、原案どおり承認可決され、吉田明、名取暢の2氏に対し、当社における一定の基準に従い相当額の範囲内で退職慰労金を贈呈することとし、その具体的金額、贈呈の時期、方法等については、取締役会に一任されました。

第7号議案 退任監査役に対し退職慰労金贈呈の件

本件は、原案どおり承認可決され、北爪恒平氏に対し、当社における一定の基準に従い相当額の範囲内で退職慰労金を贈呈することとし、その具体的金額、贈呈の時期、方法等については、監査役の協議に一任されました。

第8号議案 取締役の退職慰労金制度廃止に伴う打切り支給の件

本件は、原案どおり承認可決され、取締役の退職慰労金制度を本総会の終結の時をもって廃止したことに伴い、本総会第2号議案の承認可決により重任する取締役藤井久司、高木清次、宮本英典、北田幹直、亀井泰憲の5氏に対し、それぞれ本総会終結の時までの在任期間に対応する退職慰労金を、当社における一定の基準に従い、相当額の範囲内で打切り支給することといたしました。なお、支給の時期につきましては、各取締役の退任時とし、その具体的金額、方法等につきましては、取締役会に一任されました。

第9号議案 監査役の退職慰労金制度廃止に伴う打切り支給の件

本件は、原案どおり承認可決され、監査役の退職慰労金制度を本総会の終結の時をもって廃止したことに伴い、在任中の監査役荒渡薫、志々目昌史、八木和則、西山重良の4氏に対し、それぞれ本総会終結の時までの在任期間に対応する退職慰労金を、当社における一定の基準に従い、相当額の範囲内で打切り支給することといたしました。なお、支給の時期につきましては、各監査役の退任時とし、その具体的金額、方法等につきましては、監査役の協議に一任されました。

以上

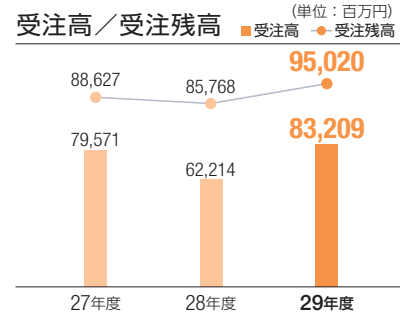
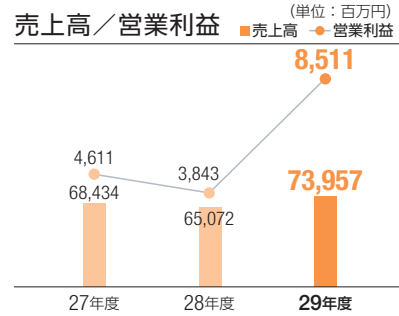
本総会終了後開催いたしました取締役会において、次のとおり役付取締役および代表取締役が選定され、それぞれ就任いたしました。

代表取締役 取締役社長	藤 井 久 司 (重任)
代表取締役 常務取締役	高 木 清 次 (新任)

また、同じく監査役会において、荒渡薫、廣川亮吾の2氏が常勤監査役に選定され、それぞれ就任いたしました。
なお、取締役を退任いたしました吉田明氏は、当社相談役に就任いたしました。



橋梁事業



当期の経営成績

総合評価落札方式において技術評価点の獲得に注力しました結果、国土交通省を中心に新設橋梁の受注を大幅に伸ばすことができました。

売上高につきましては、豊富な受注残高と好調な受注により過去最高を更新いたしました。また損益につきましても、複数の大型工事で竣工時精算による増額の獲得が重なりましたことに加え、稼働率の安定が全体的な採算性の向上につながりましたため、営業利益は過去最高を更新いたしました。

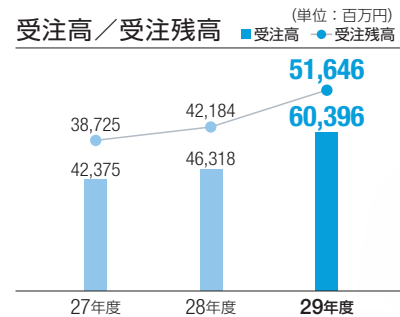
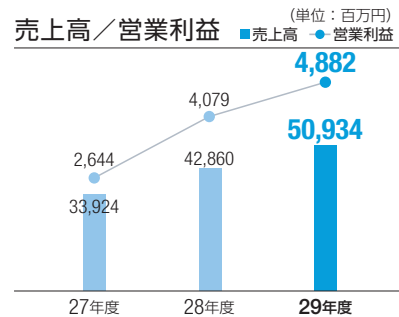
今後の取り組み

■ 新設橋梁の需要減少傾向は続きますが、老朽化対策としての橋梁補修・橋梁架替の全国的な需要に加え、高速道路の大規模更新・大規模修繕事業が本格化してまいりますため、橋梁事業全体の市場は一定の規模を保っていくものと思われまます。

■ 来期の業績は、売上高778億円、営業利益60億円と予想しております。



エンジニアリング
関連事業



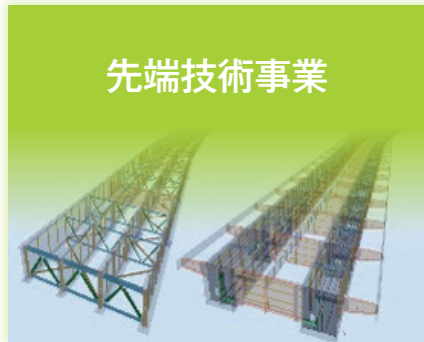
当期の経営成績

工場や物流倉庫などの旺盛な需要が継続しましたため、システム建築事業の受注が大幅に拡大いたしました。加えて建築機鉄事業につきましても超高層建築などの受注により前期実績を大きく上回りましたため、過去最高の受注高となりました。業績につきましても受注の増加に伴い増収増益となり、売上高、営業利益ともに過去最高を更新いたしました。

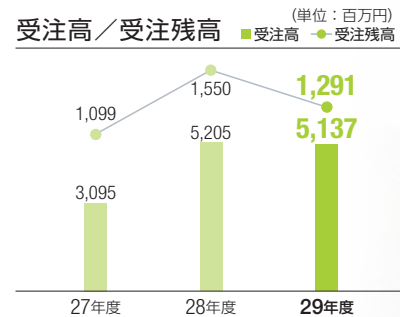
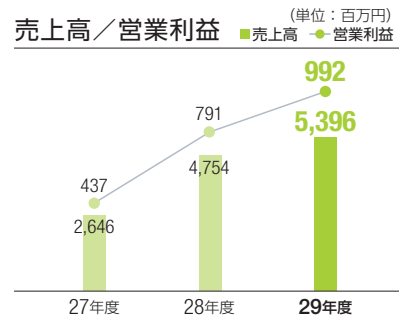
今後の取り組み

■ 土木関連・建築関連とも需要は当面堅調に推移していくと想定しており、特にシステム建築事業につきましては認知度向上による市場の拡大を期待しております。

■ 来期の業績は、売上高660億円、営業利益55.5億円と予想しております。



先端技術事業



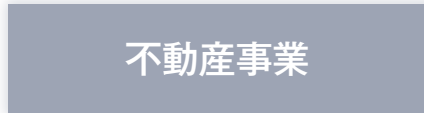
当期の経営成績

精密機器製造事業の受注が好調に推移しましたため、受注高は前期実績並みとなりました。業績につきましては、売上高、営業利益ともに過去最高となりました。

今後の取り組み

■ 引き続き新製品の開発、新規顧客の開拓に努めてまいります。

■ 来期の業績は、売上高55億円、営業利益9億円と予想しております。



不動産事業

当期の経営成績・今後の取り組み

- 安定的な収入と利益を確保することができました。
- 来期の業績は、売上高7億円、営業利益4.5億円と予想しております。

しんいんべばし 新院辺橋架設工事

～ケーブルクレーン斜吊工法による架設～

工事名称 一般県道高畑谷村停車場線 新院辺橋(仮称) 橋梁上部工製作・架設工事 所在地 山梨県都留市下谷地内の1
 工期 平成27年3月17日～平成30年1月31日 発注者 山梨県 橋梁形式 鋼単純上路式ローゼ橋 橋長 90m 鋼重 451t

本工事は山梨県より地元企業との共同企業体(JV)で受注し、ケーブルクレーン斜吊工法と呼ばれる架設工法で施工した工事です。

平成29年1月に現場に乗り込み、ゴールデンウィーク明けから本格的な架設工事に着手しましたが、現場ヤードが狭く、機材や部材の搬入にも制約がありました。また、現場近くに保育園があり、園児の送迎時間帯には通行止めを行いました。さらに、作業に必要な機材(ウインチ)を3台置くスペースがなかったため、機材を2段積みで配置【写真①】することで、問題を解決することができました。

このように、多くの制約がありましたが、夏期休暇前にケーブルクレーン斜吊工法によるアーチリブの架設【写真②・③】が完了し、12月15日に竣工検査を迎えることが出来ました。なお、今回当社JVが請け負ったのは桁の架設【写真④】までであり、床版の架設等は今後施工の予定です。

工事の施工中は、現場スタッフと架設会社を含めた関係会社の人々が常にコミュニケーションをとり、安全面に細心の注意を払いました結果、無事故無災害で竣工することが出来ました。当社グループは、橋梁事業のリーディングカンパニーとして社会資本の整備に貢献してまいります。



▲【写真①】ウインチ2段重ね



▲【写真②】鉄塔の架設

▲【写真③】ケーブルクレーンを使用したアーチリブ架設(ケーブルクレーン斜吊工法)



▲【写真④】桁架設が完了



鉄塔

ODA (Official Development Assistance (政府開発援助)) の無償プロジェクト チュリチョンバ橋改修工事

カンボジア王国
プノンペン

塗装塗り替えをメインとした老朽化補修工事

日中30度以上の炎天下のもとで

本工事は、カンボジア王国の首都プノンペン市内を流れるトンレサップ河(メコン河支流)上に架かるチュリチョンバ橋(通称:日本橋)の改修工事です。1964年、戦後賠償として7径間の箱桁が製作・架設されましたが、その後の激しい内戦によりセンター部の3径間が爆撃を受け落橋し1993年に当社を含む共同企業体が、落橋した箇所に新橋を製作・架設しました。しかしその後、老朽化が進み、ODAの無償プロジェクトとしての補修工事の一部を当社が請け負うこととなりました。

本橋は、橋長541mの鋼床版箱桁であり、当社の主要な補修工事は、塗装の塗り替えとなります。日中は30度を超える日々が続くプラスト作業や塗装作業は、シートで防護された足場の中で行われるため、水分補給や休憩を頻繁にとりながら作業を進めています。また、塗り替え工事のほか、漏水による橋梁の損傷を防ぐための伸縮装置の非排水化工事や排水設備の入れ替え工事等を行っています。

工事は年内に完了する予定ですが、最後まで現場のメンバーが力を合わせ、安全に配慮しながら着実な施工に努めてまいります。



現場メンバーによる集合写真(右がチュリチョンバ橋)



🍴 現地の食事情

現地での朝食は屋上でフランスパンに肉や目玉焼きを挟んだもの、昼食は近くの食堂のお弁当を利用しています。また、夕食はショッピングセンターで買ってきた日本の食材で自炊をすることも可能です。その他、プノンペン市内には日本食レストランも多数あり、とても便利です。

■ 連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前期	当期
	平成29年3月31日現在	平成30年3月31日現在
資産の部		
流動資産	84,138	92,176
固定資産	44,017	52,820
有形固定資産	19,380	24,700
無形固定資産	993	1,140
投資その他の資産	23,644	26,979
資産合計	128,156	144,997
負債の部		
流動負債	37,199	40,746
固定負債	21,099	23,555
負債合計	58,298	64,302
純資産の部		
株主資本	62,870	71,385
資本金	9,435	9,435
資本剰余金	10,089	10,089
利益剰余金	46,858	55,537
自己株式	△ 3,513	△ 3,677
その他の包括利益累計額	5,443	7,421
非支配株主持分	1,544	1,888
純資産合計	69,857	80,695
負債純資産合計	128,156	144,997

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前期	当期
	平成28年4月1日から平成29年3月31日まで	平成29年4月1日から平成30年3月31日まで
営業活動によるキャッシュ・フロー	△ 5,166	19,252
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 62	△ 6,624
財務活動によるキャッシュ・フロー	3,162	△ 5,844
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 1	△ 6
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△ 2,068	6,776
現金及び現金同等物の期首残高	18,515	16,447
現金及び現金同等物の期末残高	16,447	23,224

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 連結損益計算書

(単位:百万円)

	前期	当期
	平成28年4月1日から平成29年3月31日まで	平成29年4月1日から平成30年3月31日まで
売上高	113,461	131,063
売上原価	97,721	109,024
売上総利益	15,740	22,039
販売費及び一般管理費	7,719	8,308
営業利益	8,020	13,730
営業外収益	416	446
営業外費用	305	313
経常利益	8,131	13,864
特別利益	2,387	322
特別損失	4,311	141
税金等調整前当期純利益	6,208	14,045
法人税、住民税及び事業税	2,945	4,385
法人税等調整額	△ 1,393	△ 68
当期純利益	4,656	9,729
非支配株主に帰属する当期純利益	351	346
親会社株主に帰属する当期純利益	4,304	9,382

(注)記載金額は百万円未満を切り捨てて表示しております。

■ 会社概要

社名	株式会社横河ブリッジホールディングス
所在地	〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号 TEL:03-3453-4111(代表)
資本金	9,435百万円
主な機能	経営戦略、法務・監査、経理・財務 総務・人事、IR・広報、技術研究開発

■ 役員一覧(平成30年6月27日現在)

代表取締役社長	藤井久司
代表取締役常務	高木清次
取締役	宮本英典
取締役	高田和彦
取締役	大島輝彦
取締役	小林明
取締役	北田幹直(社外取締役)
取締役	亀井泰憲(社外取締役)
常勤監査役	荒渡薫
常勤監査役	廣川亮吾
監査役	志々目昌史(社外監査役)
監査役	八木和則(社外監査役)
監査役	西山重良(社外監査役)

■ 株式の状況(平成30年3月31日現在)

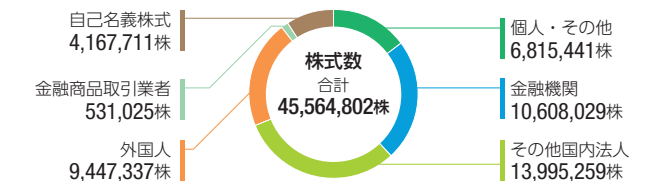
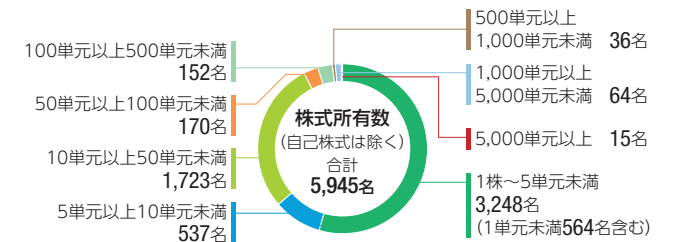
発行可能株式総数	180,000,000株
発行済株式総数	45,564,802株
株主数	5,945名

■ 大株主(上位10名)(平成30年3月31日現在)

株主名	所有株数(千株)	持株比率(%)
横河電機(株)	2,234	5.39
新日鐵住金(株)	1,987	4.80
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	1,857	4.48
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	1,740	4.20
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口9)	1,608	3.88
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口5)	702	1.69
住友不動産(株)	674	1.62
東プレ(株)	616	1.48
横河ブリッジホールディングス従業員持株会	561	1.35
DFA INTL SMALL CAP VALUE PORTFOLIO	557	1.34

(注)1.当社は、自己株式を4,167,711株保有しておりますが、上記大株主からは除外してあります。
2.持株比率は自己株式を控除して計算しております。

■ 株式分布状況(平成30年3月31日現在)



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
配当金 交付株主確定日	毎年3月31日、なお、中間配当を行う場合は、 毎年9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 〒100-8233 三井住友信託銀行株式会社
郵便物送付先 電話お問い合わせ先	東京都杉並区和泉二丁目8番4号 〒168-0063 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 電話 0120-782-031(フリーダイヤル)
同取次窓口	三井住友信託銀行株式会社 本店および全国各支店
公告方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告による公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
公告掲載URL	http://www.ybhd.co.jp/



表紙の写真 ■ 紀勢宮川橋

所在地:三重県多気郡大台町下三瀬~度会郡大紀町三瀬川
構造形式:7径間連続ラチストラス
橋長:537m 鋼重:1,918t

三重県を流れる宮川に架かる本橋は、紀勢自動車道の一部として整備されました。清流宮川と周囲の緑に調和するよう、薄緑色の軽快なラチストラス形式を採用し、2005(平成17)年度土木学会田中賞、2009(平成21)年度土木学会デザイン賞を受賞しています。

YBHDグループ



株式会社 横河ブリッジホールディングス
グループ全体の経営管理



株式会社 横河ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・土木・建築・保全・精密機器製造



株式会社 横河システム建築
システム建築・開閉式建築システム・環境



株式会社 横河住金ブリッジ
橋梁・橋梁関連製品・セグメント



株式会社 檜崎製作所
橋梁・水処理・環境製品・鉄構製品



株式会社 横河技術情報
情報処理サービス・ソフトウェア開発



株式会社 横河ニューライフ
不動産管理・情報システム・人材派遣



株式会社 ワイ・シー・イー
橋梁等構造物の総合エンジニアリング



Yokogawa Techno Philippines, Inc.



株式会社 横河ブリッジホールディングス

〒108-0023 東京都港区芝浦四丁目4番44号
TEL. 03-3453-4111(代表) <http://www.ybhd.co.jp/>

